完全対策講座 公共・政治経済

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

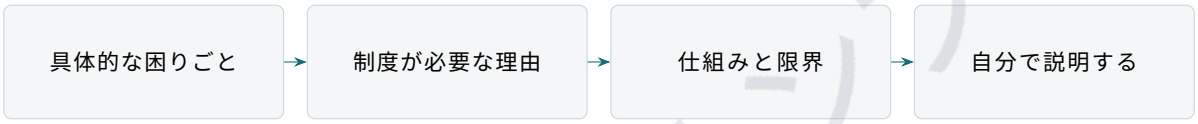
・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

高校範囲で、理解から自力の答案へ

公共・政治経済
なぜからつながる

理由をたどる。流れを再現する。
穴埋めと演習で、使える知識にする。



理解	想起	応用
58 単元・58 の解き方例	各単元 10 項目・計 580 穴	単元 381 問＋総合 50 問

試し読みサンプル

初学者から、難関国公立を目指す資料・記述の学習へ

TeX 校訂第 5 版｜ 2026 年 10 月 30 日

収録範囲は高校「公共」「政治・経済」。事例・数値・設問は、断りのない限り学習用に作成した。入試過去問の転載ではない。

最初に読む 2 ページ

この本を、どう使い切るか

まず本文の問いを読む。自分の答えを一つ予想してから、なぜその制度が生まれるのかをたどる。最初から用語を全部暗記しようとするより、「誰が何に困り、何を変えると、誰の行動が変わるか」をつかむ。

一単元の順番

段階	すること	できたと判断する条件
理解	本文・比較表・仕組みの流れを読む	見ずに原因→行動→結果を説明できる
例題	手順を隠し、次の一手を予想する	式・分母・条件の理由を言える
穴埋め	下段を紙で隠し①〜⑩を埋める	単語だけでなく文全体を読み直せる
演習	解説を隠して一問ずつ解く	答えと根拠がそろう
復習	間違えた箇所だけ戻り、再現する	翌日も同じ理由で答えられる

覚えるまでの、短い回し方

当日は本文→穴埋め→演習まで進む。翌日は本文を開く前に穴埋めを解く。3〜4 日後は間違えた演習、1 週間後は単元の問いへ口頭で答える。間違えたら、答えの形を写すだけで終わらず「知らなかった語」「つなげられなかった理由」「読めなかった条件」のどれかを記録する。復習間隔は定着に合わせて調整する。

最速とは、読む時間だけを削ることではない

初回は一単元を 35〜60 分程度の目安で進め、重い単元は分けてよい。例題の式や文章を自分で再現できないままページだけ進めると、後で覚え直す時間が増える。既に説明できる箇所は、穴埋めと演習で確認して進む。

高校範囲で深くする

本書の深さは、大学の理論を先取りすることではなく、高校の概念を使って理由・条件・資料の根拠を説明する深さである。微積分による最適化、IS-LM の体系、効用関数・ゲーム理論の証明、計量分析は扱わない。乗数や信用創造の数量問題は、高校で扱う単純模型とその前提までにとどめる。

到達度を自分で確かめる

「分かった」を、得点に変える

読了は到達の証明ではない。以下の順で、答えを見ずにできるかを確認する。本書は高校範囲の学習と資料・記述の基礎をつなぐ教材であり、特定大学への合格や全設問への対応を保証するものではない。最後に志望校の科目・出題形式を確認し、過去問で時間配分と答案の精度を調整する。

段階	目安	できなかった場合
基礎が残る	まず 8/10、仕上げは全問を理由付きで再現	対応する本文の因果を言い直す
使って解ける	各単元の演習で答えと根拠を再現	例題の手順へ戻る
条件が変わっても解ける	第 6 問で前提や例外を示せる	何が変わったかを丸で囲む
複数分野を結べる	総合演習で資料を引用し説明	分野ごとでなく問いに沿って再構成

解説を読むときの三つの動作

①自分の答えと違う箇所を一つ特定する。②解説の「なぜ」に当たる文を探す。③解説を隠し、同じ理由を別の言葉で説明する。正解した場合も、根拠が偶然でないかを点検する。正誤問題は正しい文へ直して初めて一巡とする。

記述の基本形

資料→仕組み→条件付きの結論

「資料では A が増えている。A が増えると B の費用／選択／権利にこう影響する。そのため C が起こりうる。ただし D という条件が必要であり、この資料だけでは E までは断定できない。」すべての答案に機械的に当てはめる型ではなく、根拠から結論までの抜けを点検する枠として使う。

総合演習の採点

5 テーマにはそれぞれ A・B の資料と各 5 問がある。1 資料 20 点、1 テーマ 40 点、合計 200 点。解答の採点要素に沿って自己採点する。目安時間は 1 テーマ 45 分。初回は解説を隠して一問ずつ、仕上げは A・B をまとめて時間を測って解く。解説はどの問題も直後に配置している。

24 単元の第 7 問は四択問題。正解を選んだ後、誤っている三つの選択肢を正しい文に直す。語の定義だけでなく、分母・条件・対象・手続のどこが入れ替わっているかを説明する。

巻末の「単元別・習得の確認」には、全 58 単元の到達課題と戻る演習を示した。追加の仕組みは第 7〜9 問でも確かめる。誤答ノートは「単元・問題／自分の誤り／正しい理由を一文／次に解く日」の四項目だけでよい。何度もできる問題の書き写しより、誤りの原因をなくすことに時間を使う。

読み方ノート

「公共」「政治・経済」の領域をたどる

高校範囲と、この本の対応

学習指導要領の領域を手掛かりに、関連する内容を以下へまとめた。下の対応は学習内容の所在を示すもので、すべての大学の全用語を列挙したという意味ではない。倫理の専門的な思想史や、地理・歴史の科目全体は対象外。[S1]

領域	扱う内容	主な単元
公共：人間と社会	青年期・自立・対話・文化・生命と情報	1・2・3・4・16
公共：共通の原理	人間の尊厳・幸福・正義・自由・平等	2・5・7・6
法と契約	私法・契約・消費者・司法参加	13・42・43・14
政治参加と統治	主権・憲法・三権・選挙・政党・地方自治	10・11・12・15・17・18・19
権利と平和	人権・判例・安全保障・国際貢献	7・8・9・20・50
市場と企業	希少性・需給・失敗・企業・金融	21・22・23・24・25・31・32・33・34
国民経済と財政	GDP・成長・物価・景気・税・政府	26・27・28・29・30・35・36
生活と労働	職業選択・労働・社会保障・人口	37・38・39・40
国内の課題と探究	日本経済・地域・農業・公害・防災	41・42・44・45・57
国際政治	国際法・主権・領域・国連・紛争・軍縮	46・47・48・49・50
国際経済	貿易・為替・収支・通貨・地域統合	51・52・53・54
国際的な課題	開発・格差・環境・協力・持続可能性	55・56・50・45
資料・探究	多面的な比較・構想・説明・検証	57・58

試し読みサンプル

目次

この本を、どう使い切るか 2

「分かった」を、得点に変える 3

高校範囲と、この本の対応 4

目次 5

I 自分と社会、権利の原理 8

1 政府がない町で暮らせるか 8

2 多数決なら、何を決めてもよいか 14

3 自分らしさと、他者との共存 20

4 違う文化を、どう理解するか 27

5 強い政府を、どう縛るか 33

6 人権は、最初から全員のものだったか 40

7 自由があるのに、自由に選べない 47

8 判例は、結論より理由を読む 54

9 国家と宗教・生活を、裁判所はどう見るか 60

II 政治の仕組みと参加 66

10 憲法は、誰への命令なのか 66

11 国会と内閣を、なぜ分けるのか 73

12 国会の数字には、役割の違いがある 80

13 裁判所は、なぜ多数決から距離を置くか 87

14 疑われた人の権利を守ることは、誰を守るのか 94

15 同じ投票でも、議席は変わる 101

16 画面に多い意見は、社会の多数意見なのか 108

17 制度を比較すると、特徴が見える 115

18 政治の歴史は、どの問題を解こうとしてきたか 122

19 地域で決める意味はどこにあるか 129

20 平和を願うだけで、安全は守れるか 136

III 市場・企業・国民経済 143

21 無料でも、費用がかかる理由 143

22 値上がりには、違う二つの理由がある 150

試し読みサンプル